

# 横浜市立東山田小学校 学校評価報告書（平成25年度～平成27年度）

共通取組重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	・スキルタイムを週3回設け、基礎的計算練習や漢字練習を行った。 ・4、5年生の算数では、少人数指導を行い、学力向上を図った。	スキルタイムや算数少人数指導で基礎学力の定着を図ったことでの効果は出ていた。ただ、個を伸ばす学習指導についてさらに取り組みたい。	B
2 豊かな心	・あいさつ運動、音楽集会、ふれあい給食、幼保中との交流、地域行事への参加などに、職員と児童が積極的に取り組んだ。	さまざまな学校行事や日常での保護者や地域の人たちとのふれあいを、学校全体で大事にしていくことで、気持ちの優しい児童が育った。	A
3 健やかな体	・全校で「げんき会議」を開き、「縄跳び・あいさつ・かむかむ給食」に各クラスで意欲的に継続した。	学校保健委員会を「げんき会議」と称して児童委員会活動と連携して行ったことで、心身の健康につながった。	A
4 教育環境整備	・子どもたちの学習の場である学校内を常に整理整頓し、安全対策や教材教具の充実や多目的室の活用などを行った。また、教室配置を異学年が交流できるように工夫した。	学校内の教育環境の整備では、廃棄する物を積極的に選定して実行することが、効果的だった。また、異学年配置は心の教育にもつながった。	A
5 特別支援教育	・個別に支援が必要な子どもについて個別の支援計画や指導計画を立て、全職員が理解し、かかわりながら個に応じた指導を行った。	毎月の職員会議で必ず、児童についての理解を図ったことで児童一人ひとりの顔がたいへんよくわかってチームでかかわった効果が大きい。	A
6 地域連携	・学校説明会、懇談会、まち懇、PTA運営委員会、学校便りなどを活用し、中期学校経営方針を説明します。学校の教育活動への理解が深まり、協力が得られた。	地域行事への保護者や児童の参加が少ないことが今後の課題である。それ以外の地域と学校との交流では高評価だった。	B
人材育成組織運営	・教科指導においては、学校全体としての授業力向上は今ひとつであった。メンター研修で経験の浅い教師は定期的に研修でき、成果があった。課題は中堅の教師による人材育成である。組織的な学校運営では、昨年度同様に学年を中心に推進できた。	児童指導にかかわる対応面では、個の理解等に力を入れたので、教員それぞれの力が伸びたが、学習指導や授業力向上の面で育成に課題が残った。めんたー研修だけでなく、中堅以上の教員を中心に、経験の浅い教員を育てることに次年度は力をいれていく。	C

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・今年度、組織づくりをして4部会がそれぞれのねらいに基づき、企画・推進したが、教職員に浸透するまでに至らず、意識の差が大きかった。小中合同授業研究会のもち方や児童生徒交流について課題はあるが、相互理解には大きな成果があった。また、小中合同同時避難訓練は、次年度につながる大きな一歩となった。今後、自助・共助の力をさらにつけるために防災教育を推進していく。達成感のある小中一貫教育を目指していく。
学校関係者評価結果	・あいさつをする児童がとて多く、まじめな児童も多いと感じている。教室配置を工夫し、異学年を同じ階にすることは、たいへん意義がある。社会に出てから、同じ年齢の人と仕事をするといいことはないことが多い。そういった意味でも異学年交流は大切にしたい。 ・地域行事に参加する児童や保護者が増えてきているが、町内会にもっと協力してほしいと感じている。
評価結果への学校の見解	・まちと共に歩む学校づくり懇話会の方々に伺った。地域の皆さんは学校に対してたいへん協力的で理解をして頂いている。本校が子どもたちのために取り組んでいる健康教育や総合的な学習や異学年交流などについて、地域や保護者へさらにアピールしていくことで理解を得られると感じた。

学校経営中期目標達成状況	・今年度は、チーム力を発揮し、それぞれの活動内容も十分に満足いくものであった。全体的に達成できたと思うが、それぞれの取組内容について、次年度も踏襲していくが、さらによいものとなるような改善を加えていきたい。人事異動が多い年度、児童数が減少していくことを見込んで、活動のスリム化もはかる必要が出てくる。
--------------	--

共通取組重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	・スキルタイムを週3回設け、計算練習や漢字練習を行い、基礎・基本の定着や習得を図った。 ・4、5年生の算数では、少人数指導を行い、学力向上を図った。	スキルタイムを年間通して行い基礎学力の定着と自己学習習慣が身に付いてきた。4、5年の算数少人数では、個の学力を伸ばす取組が行われた。	B
2 豊かな心	・図画工作科の研究、あいさつ運動、音楽集会、異学年交流、ふれあい給食、幼保中との交流、地域行事への参加などを通して、自尊心や感性を育んだ。	図工では自尊心の向上をテーマに学年で授業を組み立て、児童が作品に自信をもてるようになった。異学年交流や異校種交流や出前授業、地域の方とのふれあいも実践された。	A
3 健やかな体	・全校で「げんき会議」を開き、「自らのいのちを育み、守る」をテーマ、に各クラスで目標を立て、工夫して取り組み、心と体づくりに取り組んだ。	運動では縄跳び、食ではよく噛む、心では挨拶と三拍子揃った活動を児童と職員・保護者も一緒になって行い健康な体づくりに取り組めた。	A
4 教育環境整備	・子どもたちの学習の場である学校内を常に整理整頓し、安全対策や教材教具の充実や多目的室の活用などを図り、快適な学習環境を整えてきた。	図書室の整備や充実の力を入れた。学校司書の配置により、図書室は機能的になり、利用する児童の教も激増した。また、異学年を同じ階にした教室配置への賛同が多かった。	A
5 特別支援教育	・個別に支援が必要な子どもについて個別の支援計画や指導計画を立て、全職員が理解し、かかわりながらそれぞれの子どもに応じた指導を行った。	個に応じた指導が必要な児童について指導方法の改善や個別指導、カウンセラーとの連携等で対応した。保護者への周知や理解をさらに充実させたい。	A
6 地域連携	・学校説明会、懇談会、まち懇、PTA運営委員会、学校便りなどを活用し、中期学校経営方針を説明し、学校の教育活動への理解や協力が得られた。	あらゆる機会を捉えて学校のめざす教育方針や具体的な教育活動を知らせた。特に学校ホームページの改訂を行い充実させた。校長室からは児童の様子を毎日、更新して地域へも知らせるようにした。	B
人材育成組織運営	・経験の浅い教諭を中心に、教職員の育成を図るために、積極的に研修会に参加したり、ハマアップを利用したりして、教師力の向上に努めるとともに、メンターチームで自主的研修会を行った。 ・校長・副校長のリーダーシップのもと、経験豊富な教職員の指導による、授業力の向上や学校の活性化を図った。 ・学習指導、児童指導、校務分掌など、常に協働して行い、＜チーム東山田小＞の組織力で対応してきた。	5年次の教員が中心になり、自分たちの課題を自分たちで学ぶスタンスで研修を進めてきた。各学年でも経験のある教員が経験の少ない教員をサポートするチーム力が見られた。教職員と個々の課題があるので、引き続き、指導していく。組織としての学校運営はできていた。	B

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・今年度も4部会を軸に小中一貫教育を推進した。大地震を想定した保護者引取訓練を一斉に行うという新たな取組を行ったことの結果はあった。小中合同授業研究会を三小が校内授業研究会を同時公開して中学校の教員が分散する形をとった。その他、6年生の音楽交流や部活動体験、生徒会訪問など計画通りに実践できた。次年度は防災訓練では、幼稚園・保育所も同時に行う、授業研究では、山小学校が授業するだけでなく、一小学校が全教科を授業公開して、そこへ他小中学校の教員が教科に分かれて参観するような形にする。次年度も内容や方法を変えながら、小中一貫教育を推進していく。
学校関係者評価結果	・まちとともに歩む学校づくり懇話会では、概ね学校に対して高評価をいただいた。ただ、挨拶については職員自ら挨拶をすることや児童の安全についての保護者の意識を高め、見守る行動を行ってほしいという意見もいただいた。
評価結果への学校の見解	・挨拶運動等で児童や保護者が協力して挨拶の励行に努めているが、職員の自己評価にも職員自らさらに挨拶の励行が望まれるという意見があるので反省し改善していく。また、見守り隊の組織を大きくするため、保護者にも呼びかけていく。

学校経営中期目標達成状況	・人事異動が多かったことで組織的な学校運営を懸念したが、職員各自がそれぞれの分掌でまともに計画実践していたので、全体として組織は機能していた。校内自己評価ではほぼ90%以上の達成率だった。次年度は、95%に満たない部分を修正して、中期目標達成をめざしていく。
--------------	---

共通取組重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	・スキルタイムを週3回設け、計算練習や漢字練習を行い、基礎・基本の定着や習得を図る。 ・4年の算数では、少人数指導を行い、個々の学力向上を図る。	朝や最終校時、週3回のスキルタイムを年間通して行い基礎学力の定着ができた。内容について、個別化を図っていくようにする。4、5年の算数少人数は視覚教材を活用した。	B
2 豊かな心	・図画工作科の研究、あいさつ運動、音楽集会、異学年交流、ふれあい給食、運動会等を通して、自尊心を育て、自分や相手のことを考えられる子どもを育てる。	集会委員会の集会や音楽集会やヒガショウフレンドパーク（縦割り集会）、運動会といった集会的な活動が年間を通して行われた。挨拶を進んで行う児童が増えた。	A
3 健やかな体	・全校で《自らのいのちを育み、守る》をテーマに、縄跳びや給食、挨拶に取り組み、心と体の健康づくりを行う。	体力的な活動は、縄跳びやドッジボール大会を行った。食育では、定期的に「カラッポ」週間を設け、残さず食べることに取り組んだ。	A
4 教育環境整備	・子どもたちの学習の場である学校内外を常に整理整頓し、安全対策や教材教具の充実や多目的室の活用などを図り、快適な学習環境をつくる。	校舎前の通路の整備や防犯カメラ更新などの安全面での環境整備、図書室の蔵書整備や書架の整理、パソコン室整備など教育的整備の両面から一年間計画的に進めた。	A
5 特別支援教育	・個別に支援が必要な子どもについて個別の支援計画や指導計画を立て、全職員が理解し、かかわりながらそれぞれの子どもに応じた指導を行う。	個別支援が必要な児童については保護者と相談しながら個別学習や個別指導の形式で進めてきた。また児童理解全般については全職員が全児童の担任という意識でかかわった。	A
6 保護者・地域連携	・学校説明会、懇談会、まち懇、PTA運営委員会、学校便り、HPなどを活用し、中期学校経営方針や学校の教育活動を周知し、協働して子どもを育てる。	具体的な教育活動について学校だよりやホームページで知らせた。「校長室から」は児童の様子を日々更新して地域へも知らせるようにして、本校の教育活動への理解を図った。	A
7 防災・安全教育	・中学校ブロックで推進している防災教育を見直し、緊急地震速報やタタメットなどを活用し、児童に自助の力を付けるようにする。	緊急地震速報を使った予告なしの避難訓練や防災について教科・領域との関連、全市に向けた公開授業など学校全体で防災について考え、児童の自助力向上に努めた。	B
人材育成組織運営	・管理職のリーダーシップのもと経験豊富な教職員の指導による、経験の浅い教員の授業力の向上を図る。また、学年や分掌毎にチームで教育活動を進めていく。	メンター研修が充実してきた。年間計画に基づき、年間10回程度の研修をもてた。自分たちが必要とする研修内容を先輩の教員から学ぶなど、毎回、意欲的な研修会になっていた。また、職場で職員同士の会話が多く聞かれ、情報交換がなされていた。	A

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	・本校が幹事校となって昨年同様の活動内容で一年間行った。このブロックでは一昨年度から「小中合同一斉引き渡し訓練」を行っている。非常用の「引き渡し用紙」のスタイルを揃え、幼・保、小、中に在籍する子どもを明記した。今年度は幼稚園・保育園からも引取り訓練に参加があり、保護者の意識も高まった。授業研究では、昨年度末に計画した一小学校が公開授業をする形式で、「学び合い」や「ICT教育」をキーワードの各教科での話し合いをした。合同研修や児童生徒交流も計画通り行うことができ、次年度へ向けての計画も進めている。
学校関係者評価結果	・まちとともに歩む学校づくり懇話会では、子どもや保護者、地域といった視点でご意見を頂いた。挨拶は顔見知りになれば自然に子どもからすることや地域行事に保護者もさらに参加してほしいこと、学校に要求することと家庭でしなければいけないことがあるなどのご意見を頂いた。
評価結果への学校の見解	・挨拶については職員にも学校外でも挨拶することを励行してきたので昨年度より改善できた。今後も挨拶については学校全体、保護者へも呼びかけていく。保護者アンケート結果については、保護者や地域に周知してさらに意見が伺えるとよいと考える。協働して児童の育成を図っていきたい。

学校経営中期目標達成状況	・職員が気持ちを揃えて、まとも感のある学校経営ができた。そのことについては、保護者アンケートにも複数の感想にも書かれていた。「児童の自尊心の向上」をキーワードにし、重点研究での「見通しと振り返り」を視点に授業研究し、教師の授業力向上にもつなげることができた。次年度以降は人材育成を重点に中期学校経営方針をたてていく。
--------------	--

※当該年度の達成状況： A … 十分達成    B … 概ね達成    C … 努力必要    D … 改善必要